

教育目標		農業科、家政科の特性を生かし、チャレンジ精神に満ち、正々堂々と生きる人間を「ゆっくり、じっくり、たっぶり」育てる学校づくりを進める。						総合評価		
運営方針		○目指す学校像：教職員の力を結集し、確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身や社会感覚をバランス良く身に付けた、将来、社会に貢献できる「生きる力」をもった人材を育成する学校。 ○目指す教員像：教育に対する強い情熱をもち、教育の専門家としての確かな力量を備え、総合的な人間力をもった教員。 ○目指す生徒像：自己の能力を磨き、創造性を発揮するとともに、人や自然を愛する豊かな心をもっている。努力を積み上げ、社会で生かせる実践力を備えた生徒。						B		
30年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標					
ひとりひとりの生徒に細かな配慮をおこない、高校生として基礎的な力を身につけさせる。また、本校の特色である実習体験を通して、社会の厳しさや収穫、製作の喜び、働くことの意味を体感させる。昨年度と同じく、基礎学力の充実と基本的な生活習慣の確立を柱に、コミュニケーション能力を育成し、進路保障を確実なものにしていくことを課題として指導にあたる。		発達段階に応じて分ける授業を目指し、基礎的、基本的指導及び必要な支援を行い特別支援教育の充実を図る。また、社会で自立して生きていく力を身につけられるよう、キャリア教育の充実を図る。			・中・高の関連を踏まえ、つまづきを発見し、その対策に努める。 ・わかる授業を目指して、基礎的・基本的事項に重点を置き、指導内容を精選する。 ・体系的学習を重視し、つくる喜びを味わい、正しい勤労観を醸成し、社会での自己実現を図る態度を育てる。					
		基本的な生活習慣や人間としてもつべき規範意識を身につけ、主体的に判断して行動できる力を育てる。			・自ら基本的な生活習慣を身に付け、集団や社会のルールをしっかりと守ることができる人間を育てる。 ・教職員と生徒との人間的な触れ合いの場を広め、ひとりひとりを深く理解する。					
		部活動をはじめ、全ての生徒活動を昨年度以上に活発化し、ルール・マナーの習得、自主性の育成、リーダーシップの育成、達成感による自己実現や自尊感情の醸成を図る。			・生徒ひとりひとりが、ホームルーム活動・クラブ活動・生徒会活動・学校行事等に主体的に参加できるようにする。 ・ホームルームの活動を活発にし、豊かな校風を創造する。					
		健康で活気ある生活を目指し、望ましい食習慣を身につけ、自己管理能力を育てる。			・自分の健康は自分で守るという自己管理能力を育成する。 ・家庭・地域と連携して食育の推進を図る。					
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策		
				進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等			
学習指導	教材を精選し、基礎・基本事項の徹底をはかる。	生徒の進度を見極めながら、基礎的・基本的な事項が修得できるように工夫する。漢字の読み書き、計算能力の向上を図る。	学年末において、「チャレンジタイム」の取り組みにおいて、学習意欲が高まったとする生徒が80%以上となることを目指す。	B	B	漢字と計算それぞれ「ゆっくり、じっくり、たっぶり」のグループに分かれ習熟度別に取り組んでいる。漢字については、漢字検定を受検させた。	B	ゆっくり、じっくり、たっぶりの各グループを担当する教員を固定させ、計算と漢字で異なる配座を行う生徒には個別に対応することができた。前期の漢字検定では、5名の進級が見られた。	ゆっくりグループに対応する生徒数が多いが、今年度同様によりグループに分かき、特に配慮が必要な生徒には個別に対応する。	体験学習、実習の成果をアピールしていくことが必要ではないか。 山添分校の教育活動特色としてあげられている。ICTの活用をよりはかるべきである。
	体験学習をとおして生徒が自主的に活動できる指導の充実	農業科や家政科の授業において、実習授業の工夫を行い、創造性を高める実習の実践を図る。	アンケートにより農業科や家政科の実習に理解が得られたという生徒が80%以上となることを目指す。	B	B	家政科については実習に対して理解が得られているが、農業科では実習への理解が低い傾向にある。	B	依然として家政科に比べて農業科での実習に理解が低い傾向が見られるが、実習に集中できない生徒は説きつけてきている。	農業科において、実習についての進度や達成度を分かりやすく提示できるようにする。	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	各HRで服装・頭髪等のルールを守らせるなどの指導を徹底し、欠席や遅刻の防止に努める。	「服装や頭髪の指導を受けたことがない」とする生徒が80%以上になることを目指す。	B	B	今年度、頭髪・服装指導を受ける生徒は、ほとんどいない。更改の時期に朝服の着こなしについて継続的な指導が必要である。	B	今年度は頭髪指導で注意を受ける生徒はなくなったが、制服の着こなしに関して、学年の下にカーキを着て過ごす生徒がいるため継続して指導している。就職や探検研究等外へ出て行く事が多いため朝服を正しく着る意識を持たせたい。	服装や頭髪に関して、気を緩めず担任、副担任を中心に辛抱強く指導を継続していく。	基本的な生活習慣について、きちんと定着し行動できるようになっている。明確な生活目標が設定されたことで、さまざまな教育活動において生徒の向上心が補えられた。
	ボランティア精神の醸成	生徒会活動を中心に農業クラブ、家庭クラブと連携し、生徒一人一人のボランティア意識を向上させ、自主的に活動を行えるようにする。	ボランティア活動に積極的に参加したとする生徒が80%以上となることを目指す。	B	B	ほぼ毎月、清掃活動を実施している。担当している生徒も積極的に参加している。	A	ほぼ毎月、清掃活動を実施しているが、最近担当委員だけでなく担当委員ではない生徒が有志で参加してくれるようになった。来年度も継続できたらと考える。	有志の他、節活動員の生徒も幅広く参加出来たらと思う。	
進路指導	インターンシップの充実	4年生では週8日の産業現場実習を行い、職場の厳しさや仕事への取り組み方などを学び、卒業後の職場の定着を促す。	年度末の実習事業所に対するアンケートで、「必要とされる労働力が認められる」という回答が70%以上になることを目指す。	B	B	社会人として通用する人材になるよう仕事に対する心構えや意識付けを課題研究先と協力し指導している。	B	ほとんど全員が無欠席で実習を終えることができた。これは社会人として当然のことであるが、作業に慣れるまでの不安感や人間関係を構築するまでの期間、実習に対する意識をしっかりと持ち帰る結果だと思われる。	遅刻や欠席が多く、実習先に迷惑を受けた生徒に対し、実習現場での自分の役割や責任について見直し機会を設けた。実習を将来の生き方と関連付けて考え行動できるように早い段階から指導を行ってきた。	山添分校の特色である、インターンシップをより充実させてほしい。加えて、市内の事業所を対象としてインターンシップを実施してほしい。さまざまな資格取得に対するチャレンジ精神は高く評価されている。
	資格取得の促進	専門教科や学校設置の時間を活用し、漢字能力検定、フォークリフト、家庭科技術検定等の資格取得を促進する。	資格取得希望者のうち、資格を取得できた生徒が80%以上になることを目指す。	B	A	フォークリフト講習は受講者2名が合格、家庭科技術検定は受験者全員合格、漢字検定合格に向け、朝学習・チャレンジタイムで取り組んでいる。	A	個々の知識・理解を深め、技術を身につけることで、将来の職業人として役立てられるよう、各科目において資格取得に取り組むことができた。更上一の級や新たな資格取得にもチャレンジするよばたい。	個々の能力を理解し、繰り返し時間を掛けるながら学習を深めていきたい。入学時より卒業後の進路を見据えて、学習の習慣を付けることから始めたい。	
人権・特別支援教育	人権教育の充実	人権教育推進プランを踏まえたHRや各種学習会を実施する。また、高入教研究大会の発表を充実させる。	人権に関する講演会や学習会などを1年に2回以上実施する。	B	B	人権平和学習会では、映画「ワンダフル」を上映し鑑賞し、障がい者問題に関して、人を見たり言葉で差別しないということ学ぶことができた。	B	7月にスマホークタイ人権教室、8月に人権平和学習会、12月には人権作文発表会を実施した。人権作文発表会では、いじめやネットでの人権侵害、障がいやハンデをもった方への配慮など、人権について日頃考えていることについて発表することができた。	今後も継続していくとともに、HRの時間でも人権問題に関する学習を今まで以上に増やしていく必要がある。	人権意識についても、生徒が自ら考えそれぞれの意識を高めていることがよくわかる。スクールカウンセラーとの連携により、中学校在籍時不登校傾向にあった生徒も山添分校に入学して「学校」の意味を知らしめ、ほとんど欠席することなく登校できていることはすばらしい。
	特別支援教育の充実	山添村教育委員会のスクールカウンセラーとともに、生徒理解を深める。	スクールカウンセラーの教育相談の研修を、年間2回以上実施する。	A	A	希望に応じてカウンセラー利用ができた。また、1年生については全員のカウンセリングが実施できた。	A	1年生は全員、それ以外は希望に応じてカウンセラーの活用ができた。教員とカウンセラーとの連携もできおり、良好な状況である。	今後もカウンセラーとの連携を密にとり、生徒の実態把握に努めていく。	
健康・安全管理	食育の充実	食育診断調査等に基づく指導により、自己管理能力を育成し、望ましい食習慣を確立する。	年度末のアンケートで、毎日朝食を摂取する生徒が80%以上であることをめざす。	A	B	生活習慣についてのアンケートでは、生徒の80%以上が朝食を摂っている。今後も生活習慣の改善に関して啓発していきたい。	B	保健授業や家政科の授業、「ほけんだより」での啓発により、寝起きや食事等の生活習慣について興味関心を持ってもらえていると思う。しかし、食事の内容が栄養バランスが整っていない等生徒個々の完全な改善は言えない。	生徒個々の家庭の状況もあり、食事や睡眠の課題を改善することは難しいが、引き続き生徒に指導啓発をしていきたい。	健康・安全教育について、講習等が行われているが、日頃指導している先生方の役割もたいへん大きい。地域と一体となって、食育・安全教育なども充実させてほしい。
	安全教育的充実	教科指導や全体指導など、あらゆる機会を通して、災害や危険から身を守るための危機回避能力を身につけさせる。	交通安全教室を開催するとともに、年に2回は避難訓練を実施する。	A	B	7月にJAによる交通安全教室、12月に避難訓練を実施した。交通安全教室についても実施されるように働きかける。	B	7月にJAによる交通安全教室の連携を実施している。原付バイクや雪下駄が可能なため生徒は興味を持って交通安全教室を受講していた。また、避難訓練においても地震や火災を想定しておこなうことが出来た。	原付バイクや雪下駄が許可されているため、引き抜き講習会を実施していきたい。	
農業科	農業クラブ活動の活性化	近畿大会をめざし、他校農業クラブとの連絡を密にし、協力を高め相互の親睦を深めるとともに、日々の研究活動を推進する。	各種大会に参加し、県代表になることを目指す。	B	B	県代表になることはできなかったが、継続的に大会に参加している。結果を挙げて、内容を振り返ることも検討する。	B	今年度は近畿農業クラブ連盟副会長を担出し、例年とは異なる役割を担うなど他校と連携することが多かったが、無事役割を務めることができた。また収穫祭を2回実施し、特に一年生にとっては、初めての経験であったが、多くの生徒にとって良い思い出となった。	農業クラブの一員であるという自覚を持ち、日々の学習に意欲が欲しい。各種競技会で上位入賞できるように取り組むたい。	地域の農家と協力して、活動することはできないのか。種から苗の育成、作物の成長と収穫、販売まで、一連の過程を体感させればよい。
	地域交流活動	地域社会と連携するなかで、ボランティア・環境問題に選んで取り組み、活動に新しい魅力を創造する。	地域との交流活動を年間2回以上実施する。	A	A	総合実習を利用した環境整備や地域への花いっぱい運動など交流活動を実施できた。	A	地域への花配布について、予定通りの数量を確保した。また配布した花苗や野菜苗の品質を向上させることができた。村祭りにおいても、自校での栽培野菜を中心にすることができ、村民の方々に好評であった。	引き続き「花いっぱい運動」に協力している。また野菜苗の販売も地域の要請に応えることが出来るよう種類を増やす等の努力をしたい。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
家政科	家庭実習の充実	調理実習、被服製作、ホームパン等の実習の時間を充実し、製作することの喜びを体験させる。	年度末のアンケートにより製作することの喜びを体験できたとする生徒が80%以上であることを目指す。	B	ふれあい祭りや産業フェアで作品を展示することができた。また全国のコンテストにも作品を応募中である。	A	苦手意識が高く否定的であった多くの生徒が、作品を仕上げるときに技術を上達させ、やりがいを感じるようになった。全国コンテストにも作品を応募し、高い評価を得ることができた。	生徒の知識理解、技術力に差があるため、個々に合った技術指導を行い、精度の高い作品の完成を目指した。また、「自分自身の衣服を作る」という意欲が高められるような授業の展開を行っている。	山添分校を中心とした、地球づくりの視点で、家政科の教育活動をかんがえてはどうか。実習の様子からも、授業に対する生徒の集中力が向上していることはよくわかる。
	職業人としての専門性を高める	授業以外にも補習や家庭学習を通して、調理や縫製の知識を高め、技術力を身につけられるようにする。	各種検定において3級合格者100%を目指す。また、調理技術を活かし料理講習会を通じ、地域の方々との交流を図れるようにする。	B	夏休みに料理講習会を実施し、地域の方に参加いただき交流ができた。1月以降に技術検定を実施予定である。	B	授業や検定練習を通して、基本的な技術力を付けることができた。料理講習会では地域の方々との交流の中で、コミュニケーションをはかりながら、協力して実習を行うことができた。	知識については個々の理解力に差があるため、家庭学習と合わせながら理解を深め、検定合格に向けていきたい。	
学校事務	広報活動の活性化	学校の教育活動について告知することにより、地域・保護者の理解を深め、また、受験希望者の増加をはかる。	学校のホームページを月2回以上更新する。また、入学希望者にわかりやすい資料を新たに作成し、積極的な生徒募集活動をおこなう。	A	学校案内を新たに作成し、県内外の近隣中学3年生に配布した。ホームページについても、行事ごとに更新し、学校の活動内容を周知することができた。	B	学校案内の作成、ホームページの定期的な更新等により、県内外の中学校からの問い合わせが増加した。今後とも様々な手法により、学校の教育内容の広報を広くおこなう。	学校案内の作成については、次年度も継続したい。広報については、尚ほ保護者の観点から、生徒に入学時にHP等に掲載の許可を取るなど、生徒のすばらしい活動が周知できるように、HPによる広報を強化していく。	中学校の先生方にも、山添分校の教育活動の内容をわかってもらえるような機会を多く設けるべきである。ホームページからも、生徒がやりがいを感じ頑張っている様子がよくわかる。
	校務支援システムの導入	奈良県教育情報セキュリティのガイドラインを遵守し、校務支援システムを導入する。	夏期休業までにデータ移行を完了し、校務支援システムを稼働させることで、学校事務作業の効率化をおこなう。	B	前期中には移行作業を完了し、後期当初から、成績処理・校務事務処理について運用の移行をおこなった。	B	成績処理・校務事務処理について、校務支援システム「賢者」による運用を開始できた。Windows7のサポート終了にともなう、職員室のNAS等の整備ができた。	校務支援システムを活用し、連絡事項を掲示板に載せるなど、事務の効率化やペーパーレス化につとめるとともに、「賢者」を本校の事務処理形式に合わせながら活用をはかっている。	
第1学年	集団の中で自己の常識のレベルを向上させる。	なかまづつと集団生活を送るうえでのルール、マナーを身につける。	あいさつや礼儀・基本的なマナーを全員が守れるようにする。漢字や基本的な計算演習を行い、基礎学力向上を目指す。	B	あいさつや礼儀・基本的なマナーについて、きちんと出来ている。SHRで漢字の勉強を始めた。	A	職員室に入るときもきちんとしたあいさつや言葉づかいが出来るようになった。SHR・LHRを利用して漢字の勉強を継続することで、生徒も意欲的に取り組めるようになった。	職員室以外でも、あいさつや礼儀・基本的なマナーがきちんとできるようにしたい。漢字・計算演習も継続的にやり、学習習慣を身に付けて、基礎学力の向上を図る。	山添分校として、学校の将来像としてのビジョンを、山添村・山添村教育委員会とともに考えていかなければならない。生徒ひとりひとりが明確な目標を持ち活動した結果、地域での清掃活動やボランティア活動、運動クラブでの近畿大会・全国大会出場など大きな成果をあげた。村立北に向けて、その構想など広く意見を聴取するため、意見交換の機会をもつてはどうか。
		基本的な生活習慣を身につけると共に、爽やかに耐え得る体力を身につける。	遅刻・欠席の回数を年間10日以内になることを目指す。クラブ活動に全員が積極的に参加することにより体力の向上に努める。	B	ほとんどの生徒が、欠席・遅刻をすることなく登校できているが、クラブ活動に、積極的に参加している生徒が少ない。	B	中学校の時は、不登校気味の生徒も多かったが高校生になり意欲的に学校生活を送るようになった。欠席・遅刻の生徒がほとんどなく、規則正しい生活を身につけることができた。クラブ活動については参加している生徒が少ない。	欠席・遅刻に関しては、2年生以降もこの状態を維持していきたい。クラブ活動は、たくさんの新入生が入部し、クラブ活動の出席が高まることに期待する。	県内外の学校から山添分校に対する関心が増していることに対して、さらなる広報の充実が必要である。
第2学年	ひとりひとりが常識のレベルを上げ、基本的な生活習慣を身につけさせる。	高い目的意識を持ち授業に取り組み、進路実現に対応する学力を身につける。	SHRで漢字もしくは計算問題を実施する。HR等を使って自分の意見をまとめて発表できるようにする。	B	自分がその場で、意見を言うようにはなってきたが、まとめて発表するには、まだ不十分であり、今後の課題である。	A	自分の意見を、作文発表やOTで発表するにおいては、昨年度よりレベルの向上が見受けられた。しかしまだまだ十分ではないため、継続して自分の意見を述べる力を付けることが必要である。	漢字や計算練習については、次年度はOTで実施できなくなるため、HRの時間などを使って実施したい。また、次年度の県外実習に関連して、普段から各自の課題の提出などを徹底していく。	
		挨拶・言葉づかいのけじめをつけ、コミュニケーション能力を向上させる。	あいさつをしっかりする。ボランティア活動に積極的に参加し、社会の一員としての基本的な礼儀やマナーを身につけさせる。	B	基本的な生活習慣は身につけてきたが、そこから一段階上の積極性や礼儀、マナーを身につけさせていく。	B	大部分の生徒が基本的な生活習慣が身についた。しかし一部の生徒が欠席が多い生徒がいる。継続して保護者との連携が必要である。また、マナーや礼儀について、守れていない生徒も一部いるため、継続した指導が必要である。	次年度は遅刻・欠席を今まで以上に減らしていきたい。また、遅刻・欠席・マナーや礼儀について、次年度の県外実習やさらにインターンシップも見据えて、普段から意識付けを行っていく。	
第3学年	各自の能力を結集し、集団で物事を解決する態度を育成する。	日々の教室での活動や県外実習、ふれあい祭り等の学校行事を通して仲間意識を育て、互いに協力して取り組む姿勢を養う。	年度末のアンケートにより協力的な学級活動ができたとする生徒が70%以上であることをめざす。	B	県外実習では、宮崎県立大学での集団宿泊活動で協力ができた。農業体験活動も充実したものであった。	B	6月の県外実習では、宮崎県立大学での集団宿泊活動で協力があって作業することができた。また11月の山添村ふれあい祭りの模擬店でも役割分担し協力したことができた。アンケートでは約70パーセントの生徒が協力的な学級活動ができたと回答している。	ある程度役割分担して作業を進めることができたと思うが、今後はプラスアルファで率先して何か貢献しようという意欲が自然と芽生えるような心や姿勢をHR等を通じて育んでいく必要がある。	
		一般常識を広め、職業観、人生観を深める。	年度末のアンケートにより明確な生活目標が確定できたとする生徒が70%以上であることを目指す。	次年度の課題研究先(職場実習先)を検討することを通じて生徒達が、自分が将来つきたい職業について考えを深めている。	B	次年度の課題研究先(職場実習先)を検討することを通じて生徒達が、自分が将来つきたい職業について考えを深めている。	B	次年度の課題研究先(職場実習先)を検討することを通じて生徒達が、自分が将来つきたい職業について考えを深めている。アンケートでは約70パーセントの生徒が明確な生活目標ができてと回答している。	次年度4年生になり、半年後には就職活動も始まっている。HRや話し合いを通じて、就きたい仕事(職業観)を定めていき、卒業後、どのような生活を送っていくのか人生観をも深めていきたい。
第4学年	得た能力を発揮し進路希望の実現など自己を確立させる。	学級担任を中心に生徒及び保護者の願いを把握し、進路指導者と連携しながら進路先の開拓に努める。	卒業までに進路先が100%内定していることを目指す。	B	4年生在籍人数6名に対して3名進路が決定している。残りの生徒も進路実現に向けて働きかけを継続する。	A	4年生の進路については全員、就職や進学への進路が決定した。	卒業後、3月31日までは本校の生徒であるため、社会に出て行くための準備を「学級通信」等で指導していきたい。	
		産業現場実習において、現場の厳しさを仕事への取り組みや学ぶ。また社会で自立していく力を身につけ、主体的に進路を選択する能力を養う。	職場体験実習の成果が満足であった生徒が90%以上であることを目指す。	概ね職場体験実習に関しては満足し、充実した活動になっている。	A	概ね職場体験実習に関しては満足し、充実した活動になっている。	A	職場体験実習について、履修、全員終了することが出来た。生徒はみんな体験や失敗を経験する中で考え成長できた。満足いく結果となった。しかし、後半になると慣れにより、作業が遅くなる。欠席が多くなる等企業からお叱りを受けるところもあった。	課題研究で学んだことや自身の改善が必要になったことき、4月以降に活かせるように指導していきたい。

【自己評価の判断基準】	
A: 十分である(よくできた)	【目標値の達成率80%以上を目安とし総合的に判断する。】
B: ほぼ十分である(できた)	【目標値の達成率65%~79%を目安とし総合的に判断する。】
C: あまり十分でない(あまりできなかった)	【目標値の達成率50%~64%を目安とし総合的に判断する。】
D: 改善を要する(できなかった)	【目標値の達成率50%未満を目安とし総合的に判断する。】